

「月根尾」とは、学校のある地域の古名

「突根尾原」に由来する地名です



月根尾

生徒が“ホンモノ”と出会い、新しい視点を得て成長できる機会として、本校では、研修旅行や第一線で活躍される研究者・社会人の方の講演、美術鑑賞・演劇鑑賞と教科を結びつけた教科横断型学習を実施しました。

2年生

生命地域学

研修旅行(大阪・京都)

9/30-10/2

1~3ページを
ご覧ください

3日間天候に恵まれ、充実した楽しい研修旅行になりました。

1日目は午後から、大学での研修でした。1組は甲南大学で金先生の、2組は京都大学で陰山洋先生の講義を拝聴しました。大学の雰囲気を味わうとともに、学問の奥深さや研究することの楽しさを知ることができました。

夜は、ホテルでの吉本出張漫才。目の前で、迫力のある漫才を観ることができました。漫才だけでなく、トークコーナーもありました。芸人さんとの間に楽しい雰囲気を作る生徒たちの明るさ・素直さが、とても素敵でした。

2日目は、いざ、大阪・関西万博へ！！会場に近づくにつれ、テンションもあがり、西ゲートから入場し、グループごとに目的のパビリオンへ向かいました。2日目の夜は、他のグループと情報交換し、行きたいパビリオンにねらいを定めて、3日目も午前中は万博へ。未来社会を考え、世界の広さを実感し、平和の大切さを思い、心ふるえる体験をすることができました。

ある生徒の感想です。「万博のことはよく知らなかつたので、行くことを嬉しいとは、思っていませんでした。でも、いざ調べ学習をしてみると、ワクワクしてきました。実際に会場に行き、ゲートをくぐり様々なパビリオンに入ってみると、すごく楽しく過ごせました。行くことができてよかったです。」…多くの生徒が同じような思いだったのではないかでしょうか。たくさんのお土産と思い出と、そして自分の成長を手にすることができました。

生徒の感想から

◆大学には、高校よりも自分のやりたいことや好きなことが学べる環境があることが分かりました。金先生の模擬講義では、金先生の文化人類学に対する思いが伝わってきて、文化人類学という分野にとても興味が湧きました。(1組)

◆現在自分が学びたいと決めている分野以外にも面白そうな分野があることを知りました。また、「勉強には明確な目標があり、研究は自身で道を見つけていくもの」という言葉が心に深く残りました。(2組)

▼2年1組 万博会場にて



▼2年2組 京都大学にて



平和を考える演劇鑑賞と交流会 (公共・英語コミュニケーションの横断学習)

10/24

劇団十三夜による演劇『父と暮せば』を鑑賞した後、島根県の国際交流員の皆さんとの意見交流を行いました。

演劇は、舞台と客席の距離が近く、演者の息遣いや感情の揺れが直接伝わってくる迫力があり、深く考えさせられる内容でした。

鑑賞後の意見交流では、様々な国や文化的背景を持つ交流員の方々の意見を聞くことができました。

原爆の記憶をめぐる物語を通して「見えない傷」や「平和の意味」について考えた生徒たちは、演劇という表現の力と、様々な国の異なる文化からの視点の大切さを実感しました。



▲アメリカ・カナダ・ブラジル・韓国など、様々な国出身の国際交流員の皆さんから、戦争や原爆に対する感じ方、母国での教育などについて話を聞くことができました。違う国の歴史の捉え方を知る、とても貴重な機会になりました。

葛飾北斎展を通した文学国語・地歴公民の横断学習

10/27

生徒からは、

- ◆波や雲の動きが生きているようで、自然の力強さを感じました。日本だけでなく世界で評価される理由が分かりました。
- ◆津和野出身の永田生慈さんが島根県に作品を寄贈されたことを知り、地域に根づく文化の価値を改めて感じました。

という感想があるなど、作品の細部を見つめ、歴史や地域とのつながりに思いを馳せる姿が見られました。



▲教科書で見たことのある有名な版画や、北斎が挿絵を描いた版本も大量に展示され、江戸時代の出版文化に触れることができました。北斎の画力や作品数の多さに圧倒され、ステッカーや絵葉書などを買い求める生徒もいました。

生徒たちは、演劇や芸術作品といった「ホンモノ」に触れる体験を通して、人間の心や社会のあり方に迫り、自分の言葉で世界を読み解く教科横断的な思考を深める機会を得ました。

今回の2つの教科横断型学習を通して、本校のグランドデザインに掲げる「関わる力」「描く力」「発信する力」が、さらに確かな形で体現されいくことを期待しています。

生命地域学

『探究すること・皆にとって良いこと』

10/14

【株式会社 01Booster
代表取締役 CEO 合田ジョージ様】



上記表題をテーマに、合田様はご自身の起業経験から、「行動すること」「失敗から学ぶこと」「常識を疑い、新しい発想を生み出すこと」の大切さについて、生徒の目線に寄り添いながらお話しくださいました。社会で挑戦を続け活躍されるリアルな姿が、生徒たちに強い刺激と共感を与えてくださいました。

講演後、生徒からは

- ◆やりたいことがなくても、まず行動して全力で取り組むことが大切だと学んだ。

◆失敗は悪いことではなく、次の挑戦へのサイクルだという考え方方に励ました。

◆辛いことがあるからこそ、努力の中に楽しさがあるという言葉に勇気をもらいました。

◆すぐに答えを求めず、考え続けることが新しい発想につながると感じた。

などの感想が聞かれ、自らの学びに重ねる前向きな言葉が多く見られました。

講演を通して、生徒たちは「自分の可能性を信じ、挑戦することの意味」を改めて考える機会となりました。失敗を恐れず行動し、探究を続ける力こそが未来を切り拓くことを実感したようです。

『住みたい田舎ランキング1位』の飯南町にある飯南高校とぜひ交流したい！とオファーを受けて実現！

広島新庄高校との交流会

10/20

広島新庄高校の生徒会や国際交流グループの生徒、併せて12名が飯南高校に来校され、本校の生徒会執行部と生命地域学課題研究24班、26班の生徒が交流を行いました。

交流会では、両高の活動報告を行いました。新庄高校からは生徒会の取り組みと、台湾での国際交流活動についての報告がありました。本校からは、課題研究2班の活動内容を紹介し、双方で質疑応答を通じて理解を深めました。

その後、「私たちの住む町をより良くするために高校生にできること」をテーマに、4つのグループに分かれてグループトークを実施しました。互いの活動や地域について詳しく説明し合い、情報交換を行いました。各班で学んだことや今後に活かしたいことをまとめ、全体でも共有しました。



交流した生徒からは、

◆飯南町はお店や交通手段などが少なく、デメリットもたくさんあるけど、グループトークで飯南町について伝えたら、良いところがたくさんあり、地域の方からたくさん支えられていることが分かった。

◆同じ“田舎”という括りでも、それぞれ一番重要なと考えている問題点、着眼点の違いを学べた。

◆飯南高校と町との関わりが深く、新庄高校では相似できないような活動が多くあり、これから少しでも地域と学校のかかわりを増やせるようなことを企画できたらなと思った。(新庄高校生)

などの感想と共に、参加者全員が「また交流したい」と答えていて、とても有意義な交流会となつたことが分かりました。



11月3日には、生徒会執行部の生徒が新庄高校の文化祭(新庄祭)に行かせてもらいました。インタビューや見学させてもらったことを参考に、来年度の鵬雲祭に活かしていきたいです。

野球部

10/11,19

出雲地区フレッシュトーナメント（旧1年生大会）

【1回戦】飯南 6 – 3 大社

【準決勝】飯南 8 – 2 平田

【決勝】飯南 0 – 4 三刀屋

準優勝!

卓球部

10/24-26

島根県高等学校新人卓球大会

【学校対抗戦】

予選グループ戦男子 5位

予選グループ戦女子 4位

【シングルス】

中原陸 初戦突破



バレーボール部

10/24-26

島根県高等学校バレーボール選手権大会

【1回戦】飯南 2 – 0 矢上

【2回戦】飯南 0 – 2 出雲農林



テニス部

10/18-19

島根県高等学校テニス新人大会（団体の部）

【2回戦】飯南 1 – 4 開星



書道同好会

10/23-26

第58回 島根県高校書道展

島根県立美術館で開催されていた書道展に、4名が作品を出品しました。



JRC部

10/28

赤い羽根共同募金

街頭募金にご協力いただき、ありがとうございました！



12月 の主な行事予定



1日（月）期末試験（11月27日～12月2日）

4日（木）SC来校（午後：飛田先生）

11日（木）SC来校（午後：菅先生）

12日（金）生徒面談週間（～18日）

17日（水）放課後家庭学習日

18日（木）ふるさとシンポジウム

19日（金）保護者面談（～25日）

24日（水）終業式

壮行式（スキ一部）

26日（金）閉寮（正午～1月4日正午）